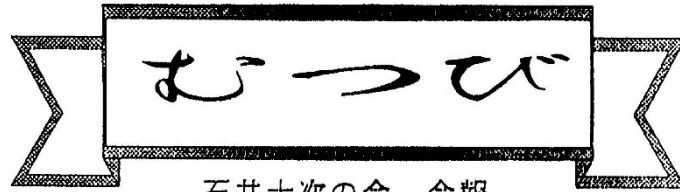


2020年
(令和2年)
2月13日



269号

石井十次の会 会報

十次の精神を受け継ぎ、伸びる生徒たちとともに

木城町立木城中学校

校長 大山 博志

私は毎朝、学校入口の信号機のある横断歩道で交通安全指導を行っています。そこで朝一番に出会うのが町営バスで登校してくる友愛園の子どもたちです。みんな明るい笑顔で、元気に「おはようございます」とあいさつしてくれます。彼らとのあいさつから私の1日がスタートします。



【茶臼原憲法の掲示板】

木城中学校の玄関には、石井十次先生の精神を明示した「茶臼原憲法」が掲示してあります。毎朝、玄関を通るたびに気が引きしめる思いがします。校長室に入ると歴代校長の写真と共に石井十次先生の肖像画があり、その下には「天は父なり 人は同胞なれば互いに相信じ 相愛すべきこと」の文字が記されています。それを見るたびに木城中の教育の原点がここにあるという気持ちになります。

また、学校図書館には木城町関連の書物コーナーがあり、石井十次先生に関する書物を気軽に手にとって読むことができます。このように木城中学校には石井十次先生の精神を伝えるものがいたるところにあり、本校教育を見守ってくれています。

友愛園から登校してくる生徒たちは、様々な事情で家庭を離れ生活しています。それでもみんな明るく元気に学校生活を送っています。授業中はだれもが真剣に「学び合い」学習に取り



【学校図書館の木城町コーナー】

組んでいます。清掃や生徒会活動、学校行事にも積極的に取り組み、中にはリーダーシップを発揮し、学校を引っ張ってくれる存在となっている子どもたちもたくさんいます。

木城中学校では、年数回、友愛園の先生方とのお話をする機会があります。学校生活の様子をお伝えしたり、友愛園に帰ってからの生活や休日の生活の様子を聞かせていただいたりしています。学校での活躍の様子もたくさんお話しさせていただきました。友愛園の先生方からも、園の中で小学生から中学生、高校生までがいっしょになってお米作りや野菜作りなどの農作業に取り組んでいること、施設対抗の野球大会や駅伝大会でみんなが団結し優勝を勝ち取ったことなど、共同生活を通して貴重な体験や学びが行われていることを伺い、頼もしく思いました。また、夏休みには友愛園を訪問させていただきました。施設の中に入らせていただいたのは初めてでしたが、茶臼原の豊かな大地と緑に恵まれた環境の中で、のびのびと暮らしている子どもたちの姿を見て、児嶋園長先生をはじめ職員の皆様の深い愛情に見守られながら集団生活を行っていることがよく分かりました。施設内の広場では、野球やバレーボールをして小学生と中学生がいっしょに遊んでいました。こうした中で、年長者が年下の者の世話を自然とするようになっていくのだなと思いました。



【認知症サポーター養成講座の様子】



【地域一斉清掃活動の様子】

現在、本校では地域包括支援センターの御協力の下、認知症サポーター養成講座を行い弱い立場の人を思いやり、支えていくことの大切さを学んでいます。また、木城小学校と連携し地域一斉清掃にも取り組んでいます。自分たちの住む地域を自分たちできれいにしていこうという取組ですが、活動を通して中学生が小学生をやさしくリードし、共に汗を流していました。この活動の中で友愛園の子どもたちはもちろんのこと、児童生徒全員がいっしょになって地域貢献をしていました。これらの活動は、みんなで助け合い支え合いながら生きていくという石井十次先生が、木城の地で学ぶ子どもたちの間にもしっかりと根付いている証だと思います。

「忘れられない思い出」 その2 ～館野キミさん～

石井十次の生家は、高鍋西小学校近くの県道から北へ50メートル程入った静かな住宅街にある。1972年（昭和47年）に県の文化財指定を受けている。

今から130年以上前に、十次の父・万吉が建てた。

十次の長女・友は、1913年4月2日に、洋画家 児嶋虎次郎と結婚した。1913年12月18日に、次女・震子も館野智春と結婚した。柿原政一郎の「石井十次」によると、館野はアメリカに遊学中であったが、十次の病状の悪化のために急いで帰国。



石井十次 生家

結婚式は、十次の枕元で執り行われた。

このような訳で、十次の生家は以後、館野夫妻が住み守ることになった。それは、十次の孫・館野玄一郎さんの妻・館野キミさんが2008年に他界するまで続いた。（今は娘の恵さんが大切に管理している。）

館野キミさんは、高鍋町役場で保健師として、町の保健衛生、乳幼児の健康、予防接種などに大変尽力された方だった。

私は同じ町職員として、働く女性の先輩として、とても尊敬していた。当時の私は、長男を出産したばかりの頃だった。今でこそ、産休や育休を長期で取れる時代になったが、当時は、産前6週間産後8週間での職場復帰であった。

まだ首も据わらない状態の乳児を、大きなキャリーバッグに寝かせて、毎朝「昼間のママ」（個人で乳児を育児してくれる女性のことを、我が家ではこう呼んで慕っていた。）に預けて仕事に向かった。

今から42年前の話であるが、その頃でもすでに周囲では、乳幼児を背中におんぶする女性は少なくなっていたように思う。

私は母が「これが一番いいよ。」と言っていたので、母が用意してくれた暖かいねんねこ半纏を着て、子どもに子守唄を聞かせた。おんぶは、ぴったりと母子が寄り添えて安心するらしく、すぐ寝付いてくれた。外出時でも、子どもが泣くとおんぶした。

そんな私の姿を見ていて、励ましの言葉をかけて下さったのが館野キミさんである。保健師の白衣姿でてきぱきと働かれる姿はとても美しかった。その館野さんが、私に「感心！感心！今どきねんねこ半纏を着て子育てしている人は、テレビの中の“おしん”か、徳地さんぐらいよ。今は大変だけど、きっと子どもは愛情を感じてよい子に育ちます。頑張ってるね・・・」と色々お話し下さった。とてもお話が楽しかったことを覚えている。

十次の母・乃婦子は、十次が自分の上等の帯と交換する『縄の帯』の話を「よいことをした。」とほめて十次の愛の心を育てた、素晴らしい母親だったが、館野キミさんも、本当に柔和で上品な、素敵な女性だった。今でも、私の心に残る「忘れられない思い出」の一つである。

（編集委員 徳地）



生家 西側には十次の友人 徳富蘇峰の筆による石碑が建っている

《 お し ら せ 》

★新会員のご紹介（敬称略）

【高鍋町】井手口 あけみ

【宮崎市】松下 さおり

林 由美子

渡辺 愛子

★ご寄付をいただきました（敬称略）

（一般）

【宮崎市】岡上 マチ子

宮交シティカルチャーセンター

【名古屋市】田爪 光信

【埼玉県比企郡】強瀬 順子

【木城町】吉田 園恵

【三股町】小倉 幸利

【岡山市】長瀬 一喜

【糸島市】山崎 数彦

【高鍋町】幸丸 公子

（奨学金）

【宮崎市】滝 真理子

●署名の協力に感謝します

昨年8月に開催された石井十次セミナーで「宮崎・高鍋宣言」が採択されました。児童福祉法の改正の中で真の子どもを養育することができなくなる文言があり、その改正・削除を要望する宣言です。

そこで「日本の福祉文化と子どもの未来を守るための要望書」の署名活動を「ゆうあい通信」等でお願いをさせていただきました。

さらには、「十次の会」でも10万人を目標にことあるごとに精力的に取り組み続けました。

その活動が2020年1月をもって終了です。現在、集約中です。

しかるべき機会に報告をしますが、まずは皆様の署名への協力に心から感謝します。

★12/23～1/20の資料館来館者

団体・グループ 0人

個人 13人 合計13人

ここまでの掲載者は編集委員会開催の都合により1月20日までのものとしています。

★3月号の通信発送作業

3月11日（水）9時から印刷・製本

12日（木）9時から製本・発送

★編集後記

「むつび」1・2頁は木城中校長の大山博志様に玉稿をいただきました。ありがとうございました。

2020年の幕が開けています。オリンピック・パラリンピックイヤーでもあり心が弾みます。

・・・文責 生駒

この会報は、宮崎県を中心に全国1700余の個人・団体に毎月送付しています。

社会福祉法人 石井記念友愛社
後援会「石井十次の会」

☎ 884-0102 宮崎県児湯郡木城町大字椎木 644-1
TEL/FAX 0983-32-4612
メール yuuaisya-jyuujinokai@kijo.jp